

## 1 研修の方針

授業研究会、協議会等への参加を通して、子どもたちが意欲的に活動し、コミュニケーション能力を高めることのできる授業展開を探る。

## 2 研修の概要

### (1) 授業研究会

- ① 期 日 平成23年11月16日(水)
- ② 会 場 佐渡市立両津小学校
- ③ 授業者 佐渡市立両津小学校 藤田 優太 教諭  
ALT
- ④ 内 容 第6学年  
「将来の夢を紹介しよう」(英語ノート2 lesson 9)
- ⑤ 指導者 佐渡市立南中学校教頭 近 正
- ⑥ 授業の概要



次時の自分の将来の夢を紹介し合う「スピーチコンテスト」へ向けて、「I want to be ~.」(私は~になりたい。)という表現を使った英語のスピーチ原稿を作成し、自信をもって「スピーチコンテスト」に臨めるよう意欲を高めることをねらった授業であった。

前時までに日本語で原稿を作成してあり、本時では HRT や ALT の力を借りてそれを英訳した。その際、これまでに学習した「I want to~」「I like ~」「I can~」も活用できるよう日本語原稿を考えさせてあった。そのため、スピーチ内容が豊かになっただけでなく、これまでの学習の復習にもなった。原稿は無理にアルファベットで書かせず、片仮名で発音を書く程度で良しとした。HRT や ALT に聞くときには「What's ~ in English?」という表現を使うよう指導し、作業に入る前に練習をさせた。

原稿作成の場面では、周りの友だち同士で教え合う姿や積極的に手を挙げて HRT や ALT に尋ねる姿が見られた。なかなか HRT や ALT に聞けず困っている子もいたが、隣の席の子が助けてあげたり、HRT が気付いて教えてあげたりしていた。

発表の練習場面では、HRT と ALT の前に並び、英語の表現が合っているか、発音が合っているかを聞いてもらった。「OK !」と言ってもらったことで、ほっと安心する顔、喜ぶ顔、みんななどともいい表情になった。また、並んでいる間に自然とコミュニケーションが生まれ、互いにそれぞれのスピーチを聞き合う姿も見られた。

最後に ALT のスピーチを聞き、次時への意欲をもたせた。導入段階で、スピーチへの意欲付として聞かせるともっと良かったかも知れない。

原稿作りということで、小学生には少々難しい内容かとも思われたが、子どもたちは自分の思いを表現しようと意欲的に頑張っていた。

### (2) 新教育課程研究集会伝達講習会

- ① 期 日 平成23年11月16日(水)
- ② 会 場 佐渡市立両津小学校 沿革室
- ③ 伝達者 佐渡市立高千小学校 松田 健太 教諭
- ④ 内 容
  - ・外国語活動の目標
  - ・新しい評価の観点
  - ・学習評価のポイント
  - ・各観点の評価における配慮事項
  - ・評価基準の設定例

